

# 第 7 章

---

## 資料編

## 第7章 資料編

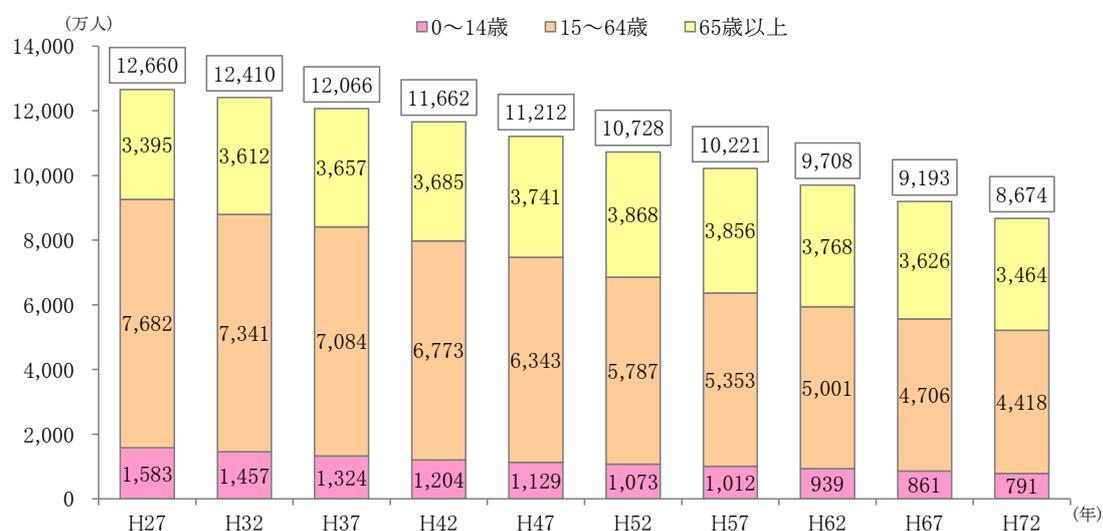
### 7-1. 観光を巡る現状と川越市の観光の特性

#### (1) 全国の観光動向

##### ① 全国の人口推計（図7-1）

全国の人口は、出生率の低下と高齢化率の上昇により、減少傾向に転じており、今後、本格的な人口減少社会が到来するといわれています。

このまま減少が続くと、平成37（2025）年には約1億2千万人、平成47（2035）年には約1億1千万人、平成57（2045）年には約1億人、平成62（2050）年には1億人を下回る見込みであることから、国内観光市場が縮小していくことが見込まれています。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口\_報告書」（H24年）

図 7-1 全国の人口推計

## ②国内宿泊旅行の参加回数及び宿泊数（図7-2）

国内市場における一人当たりの宿泊観光旅行への参加回数を見ると、平成18（2006）年以降の減少傾向が平成24（2012）年には増加に転じたものの、平成26（2014）年に再び減少しています。

一人当たりの宿泊数についても、ほぼ同じ傾向で推移しています。

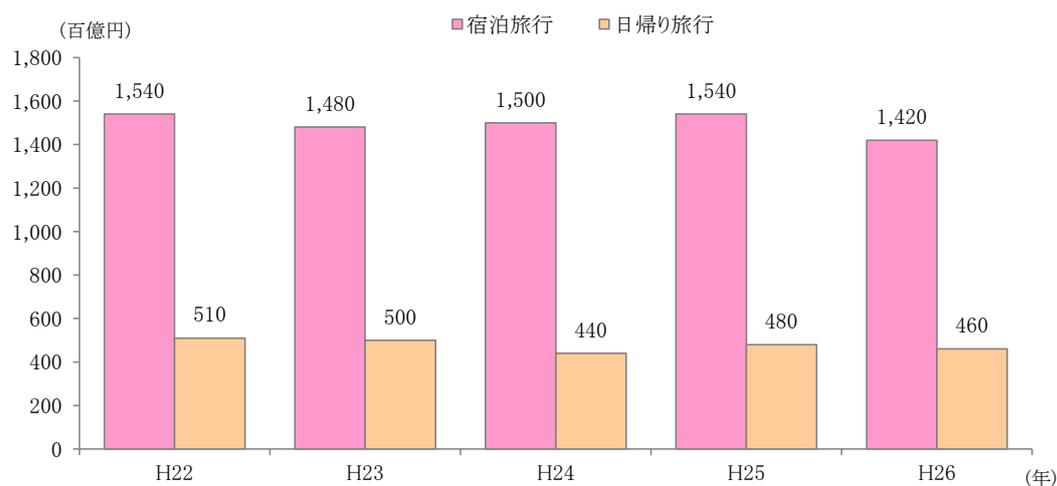


資料：観光庁「観光白書」（H27年）

図7-2 国内宿泊旅行の参加回数及び宿泊数

## ③国内旅行の消費額の推移（図7-3）

宿泊旅行と日帰り旅行ともに若干、減少傾向で推移しており、平成26（2014）年は宿泊旅行が約14.2兆円、日帰り旅行が約4.6兆円となっています。



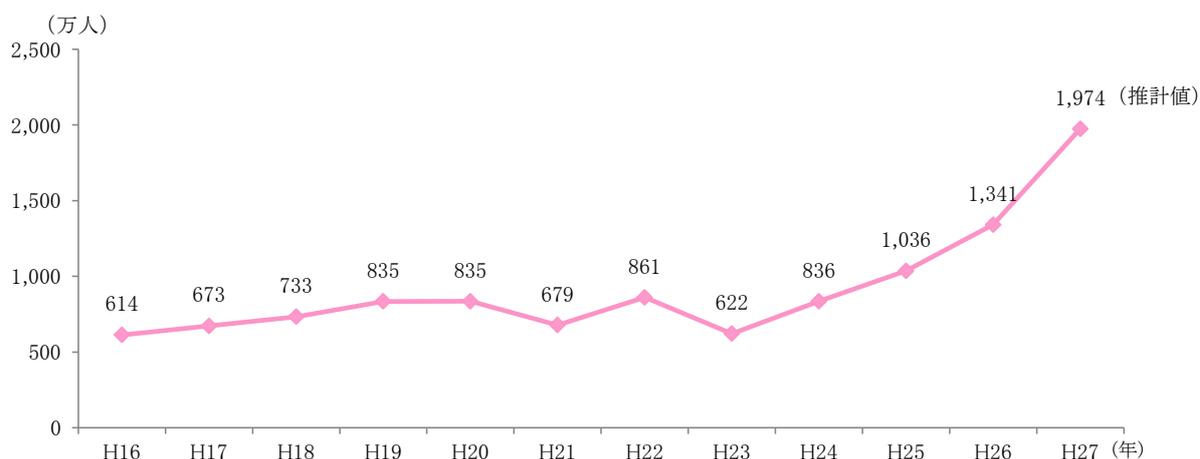
資料：観光庁「観光白書」（H27年）

図7-3 国内旅行の消費額の推移

#### ④訪日外国人旅行者の推移（図7-4）

訪日外国人旅行者は増加傾向にあります。その背景には東アジア諸国の所得水準の向上や政府による外国人観光客の誘客活動（ビジット・ジャパン事業）の開始、さらには韓国の短期滞在ビザ免除、中国のビザ発給要件緩和、タイ・マレーシアの短期滞在ビザ免除の実現などがあります。

東日本大震災により一時減少しましたが、平成24（2012）年にはその影響から回復し、平成25（2013）年には1千万人を突破しました。

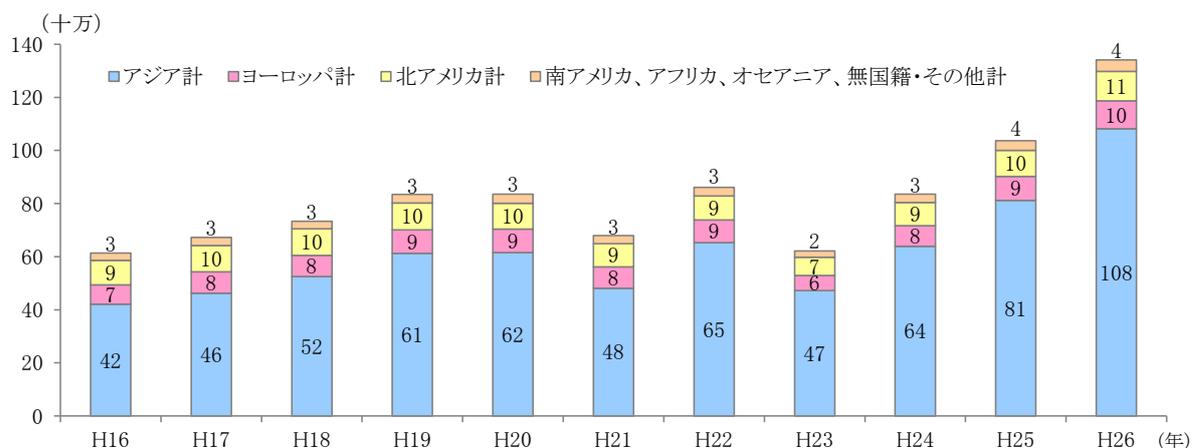


資料：日本政府観光局「年別訪日外客数、出国日本人数の推移」

図7-4 訪日外国人旅行者の推移

#### ⑤地域別の訪日外国人旅行者の推移（図7-5）

訪日外国人旅行者を地域別にみると、韓国、中国、台湾などのアジアからの来訪者が多い状況となっています。

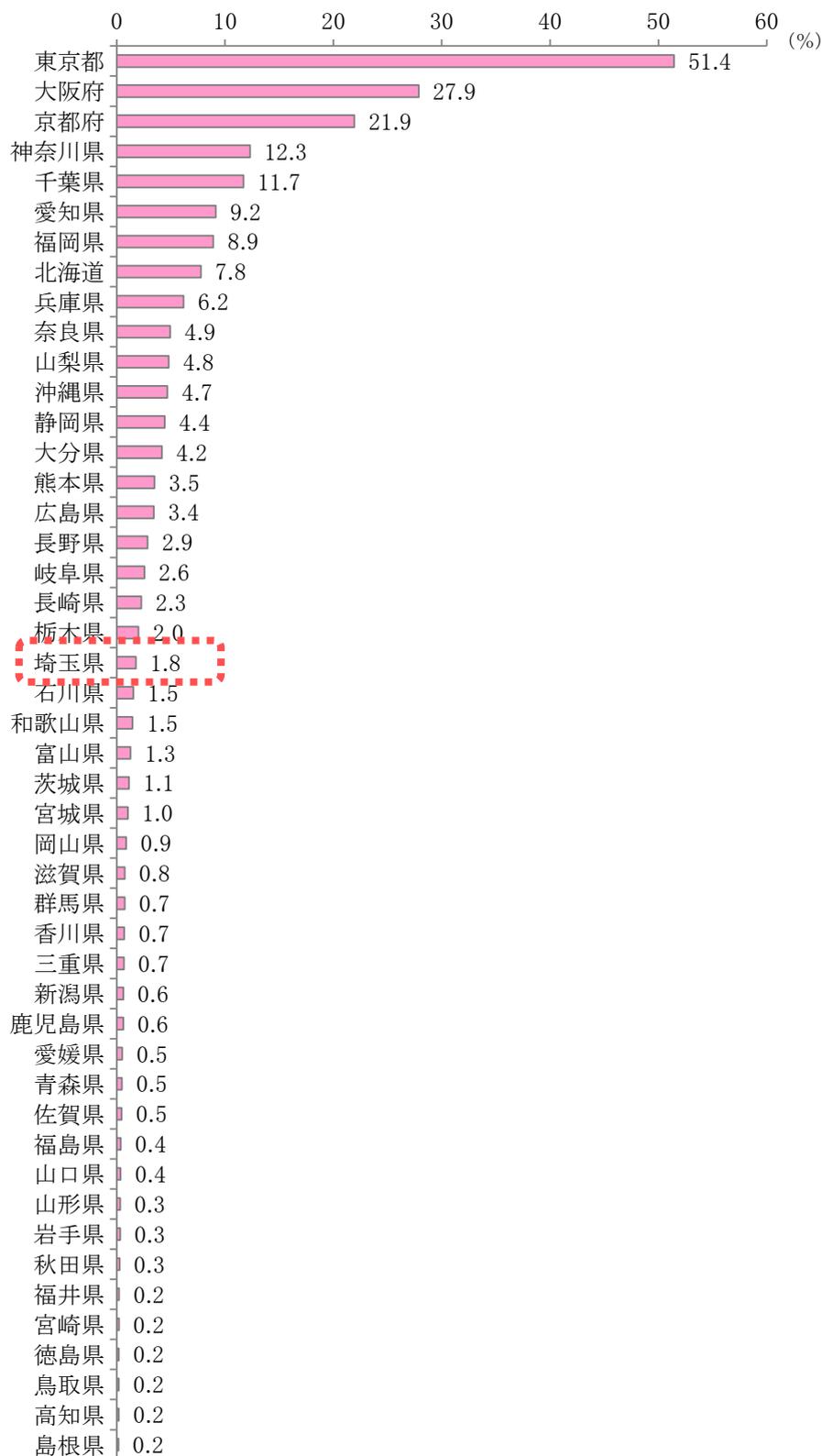


資料：日本政府観光局「国籍別訪日外客数」（H26年）

図7-5 地域別の訪日外国人旅行者の推移

⑥訪日外国人旅行者の訪問都道府県の割合（図7-6）

訪日外国人旅行者の訪問都道府県の割合をみると、東京都、大阪府、京都府が20%以上と高くなっています。その中で、埼玉県は1.8%となっています。



資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」(H26年)

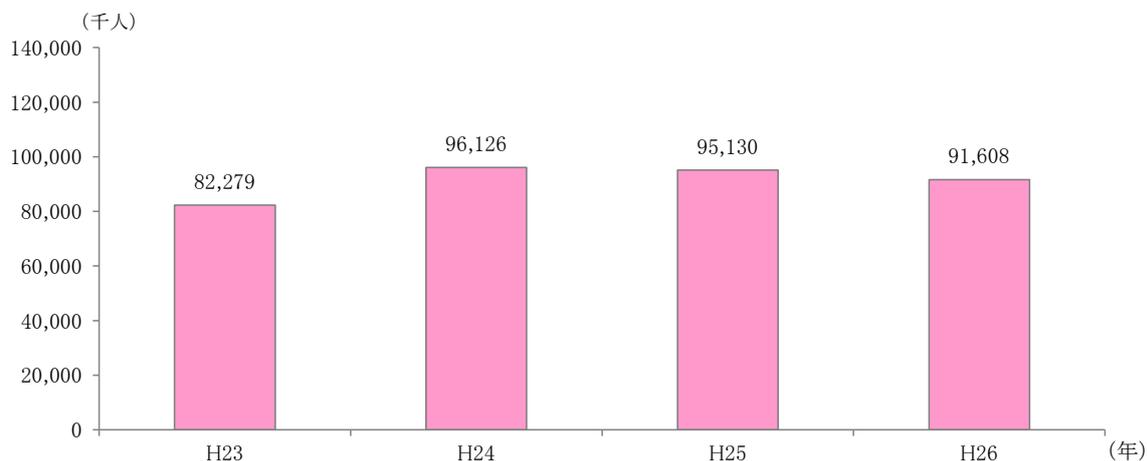
図 7-6 都道府県別外国人旅行者訪問率

## (2) 埼玉県観光動向

### ① 埼玉県の観光入込客数の推移 (図7-7~9)

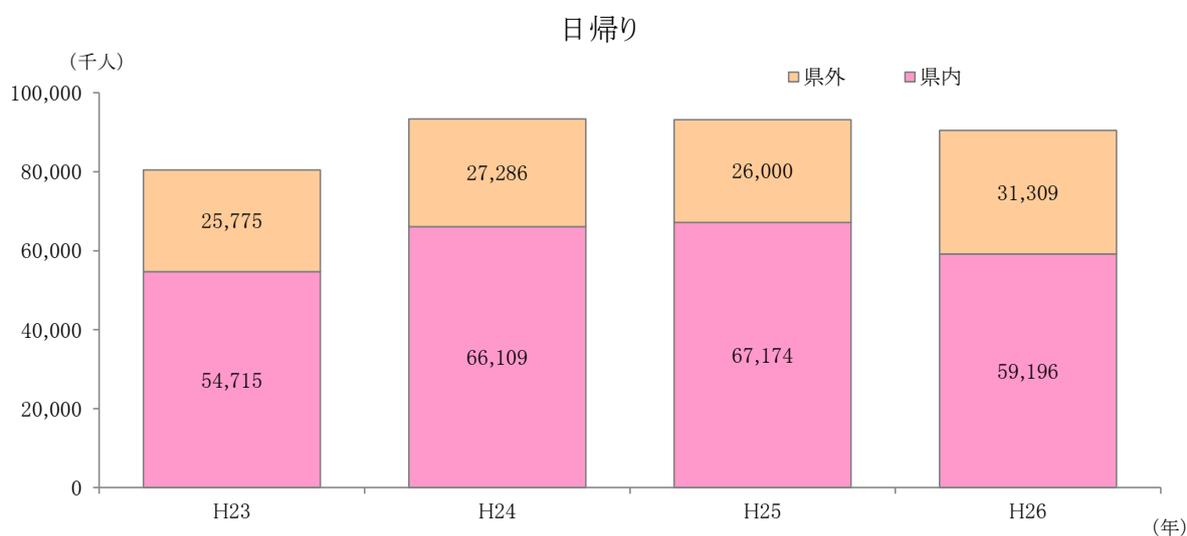
埼玉県の観光入込客数は、東日本大震災の影響を受けた平成23(2011)年から平成24(2012)年は大きく増加したものの、それ以降は若干減少傾向にあり、平成26(2014)年は約9.2千万人となっています。

日帰り観光は県内からの観光客が多く、宿泊観光は県外客数の方が多くなっています。



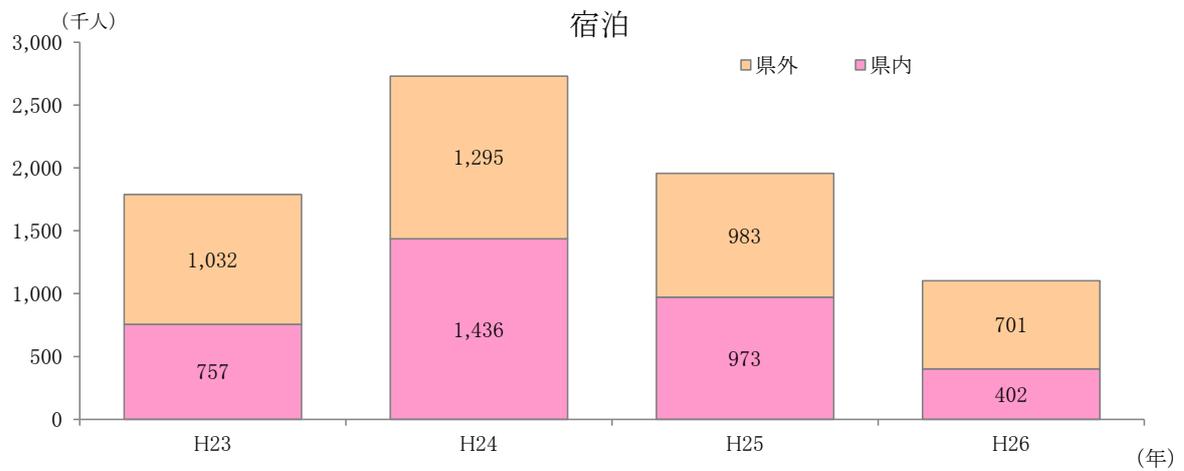
資料：埼玉県観光入込客統計調査 (H26年)

図7-7 埼玉県の観光入込客数の推移



資料：埼玉県観光入込客統計調査 (H26年)

図7-8 埼玉県内及び埼玉県外別に見た日帰り観光客数の推移

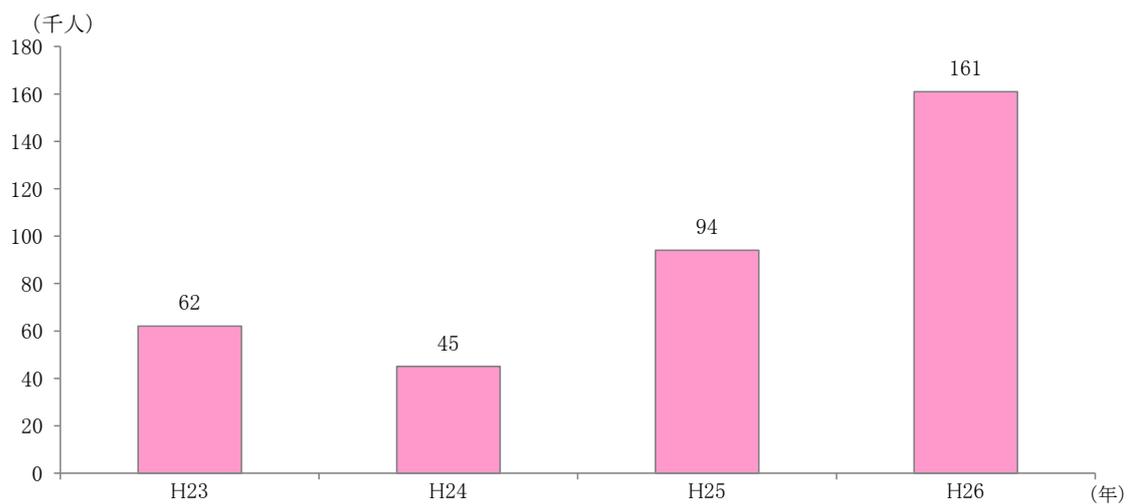


資料：埼玉県観光入込客統計調査（H26年）

図 7-9 埼玉県内及び埼玉県外別に見た宿泊観光客数の推移

②埼玉県の訪日外国人旅行者の推移（図 7-10）

埼玉県の外国人旅行者は、平成 24（2012）年は減少したものの、それ以降は増加傾向を続けており、平成 26（2014）年は約 16 万人となっています。



資料：埼玉県観光入込客統計調査（H26年）

図 7-10 埼玉県の訪日外国人旅行者の推移

### (3) 川越市の観光動向

#### ①川越市の入込観光客数の推移（図7-11）

川越市の入込観光客数は、平成23（2011）年に東日本大震災の影響で若干、減少したものの、増加傾向にあり、平成27（2015）年は約665万人となっています。

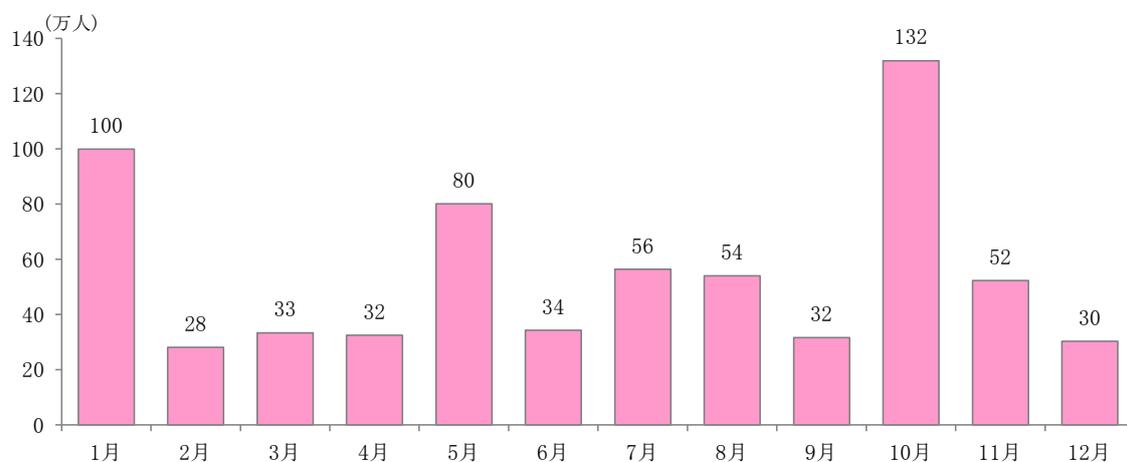


資料：川越市入込観光客数（H27年）

図7-11 川越市の観光入込客数の推移

#### ②川越市の月別の入込観光客数の推移（図7-12）

川越市の入込観光客数を月別にみると、川越まつりの影響で10月、喜多院初大師等の影響で1月の入込観光客数が多くなっています。

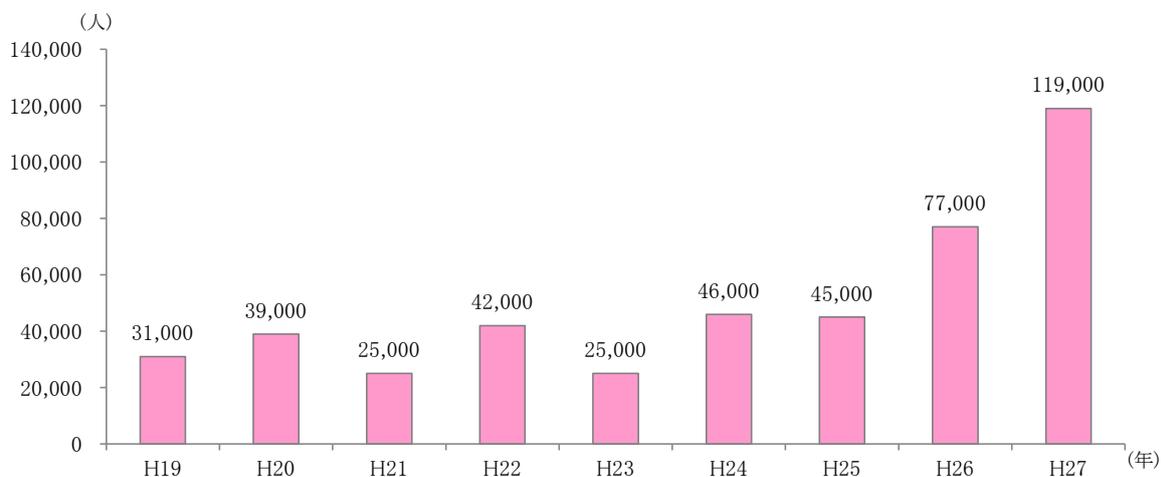


資料：川越市入込観光客数（H27年）

図7-12 川越市の月別にみた観光入込客数

### ③川越市の外国人入込観光客の推移（図7-13）

川越市の外国人入込観光客は、東日本大震災の影響などで減少した年があったものの、増加傾向にあり、平成27（2015）年は11.9万人となっています。

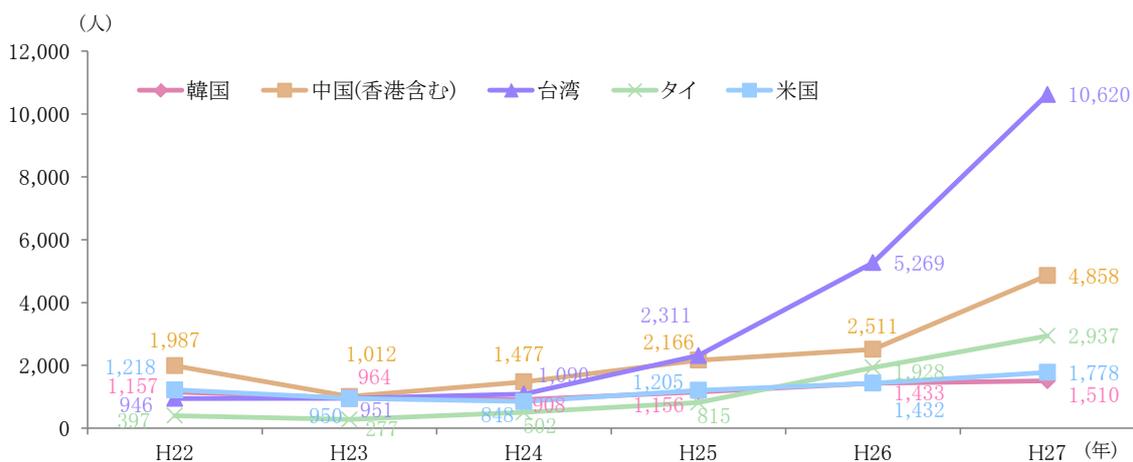


資料：川越市入込観光客数（H27年）

図7-13 川越市の外国人入込観光客の推移

### ④観光案内所を利用した国籍別の外国人観光客の推移（図7-14）

市内の観光案内所（川越駅、本川越駅、仲町）を利用した外国人観光客を国籍別の上位5カ国で見ると、平成23（2011）年は東日本大震災の影響などで減少したものの、増加傾向にあり、特に台湾とタイは、平成25（2013）年以降、大きく増加しています。



資料：川越市入込観光客数（H27年）

図7-14 川越市の国籍別の訪日外国人観光客の推移

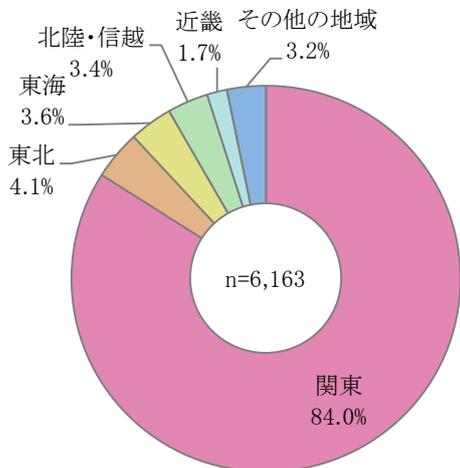
#### (4) 川越市への観光来訪者の特性

##### ①出発地 (図7-15)

観光来訪者の出発地をみると、関東が8割以上を占めています。

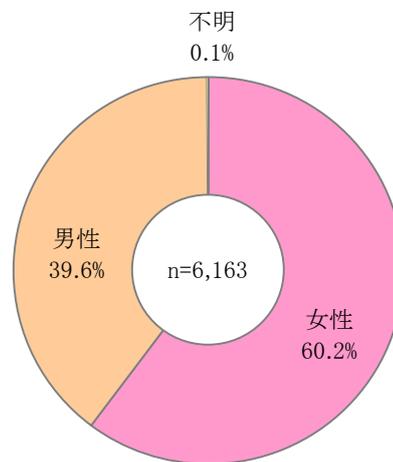
##### ②性別 (図7-16)

観光来訪者の性別をみると、女性が約60%、男性が約40%となっています。



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図 7-15 出発地



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

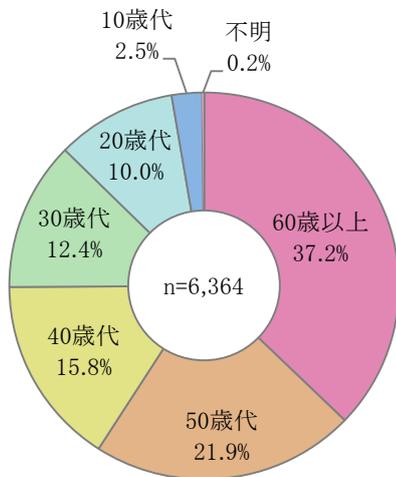
図 7-16 性別

##### ③年齢 (図7-17)

観光来訪者の年齢をみると、60歳以上が約37%と最も高く、次いで、50歳代が約22%、40歳代が約16%、10~20歳代の若年層は、約13%となっています。

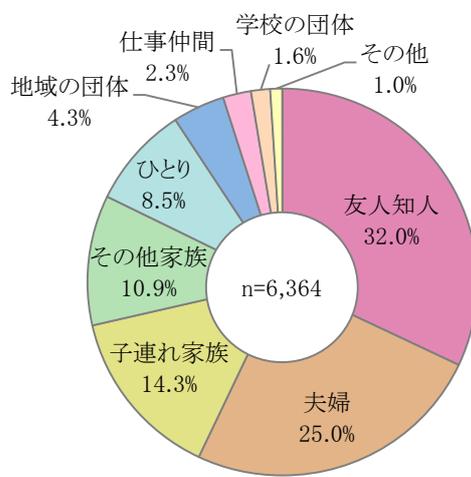
##### ④同行者 (図7-18)

観光来訪者の同行者をみると、友人知人が32%と最も高く、次いで、夫婦が25%、子連れ家族が約14%となっています。



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図 7-17 年齢



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

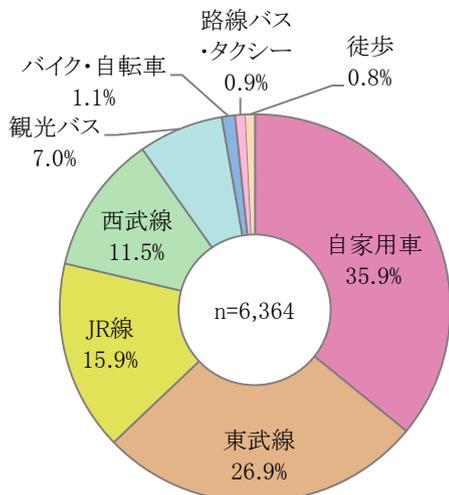
図 7-18 同行者

⑤交通手段（図7-19）

観光来訪者の交通手段をみると、自家用車が約36%と最も高く、次いで、東武線が約27%、JR線が約16%となっています。

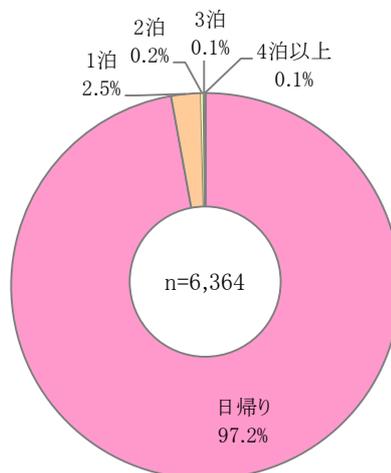
⑥滞在期間（図7-20）

滞在期間をみると、日帰りが9割以上を占めています。宿泊は約3%程度となっています。



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図7-19 交通手段



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

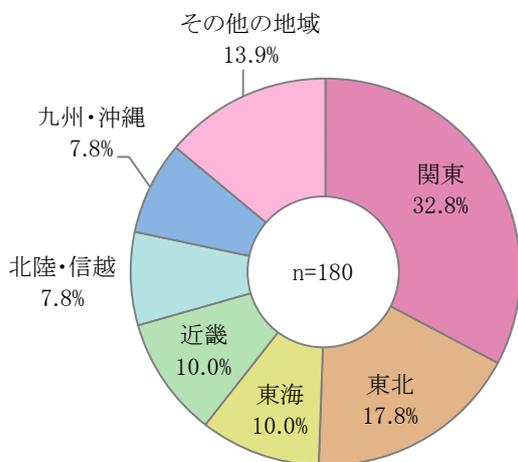
図7-20 滞在期間

⑦宿泊観光客（図7-21）

宿泊観光客の出発地をみると、関東が約33%と最も高く、次いで、東北が約18%、東海と近畿が10%となっています。

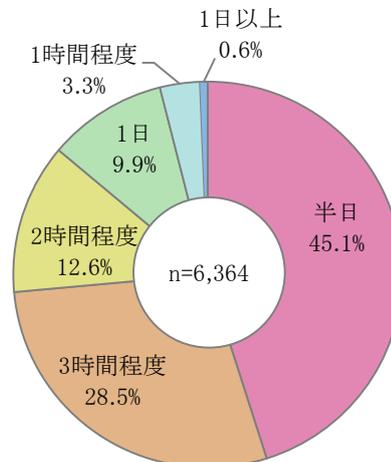
⑧観光時間（図7-22）

観光来訪者の観光時間をみると、半日が約45%と最も高く、次いで、3時間程度が約29%、2時間程度が約13%となっています。一方、1日との回答は約10%となっています。



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図7-21 宿泊観光客の出発地



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

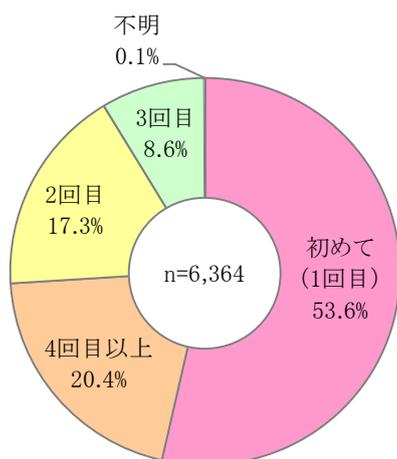
図7-22 観光時間

⑨来訪回数（図7-23）

来訪回数をみると、初めての来訪が約54%となっており、一方、2回目以上のリピーターは約46%となっています。

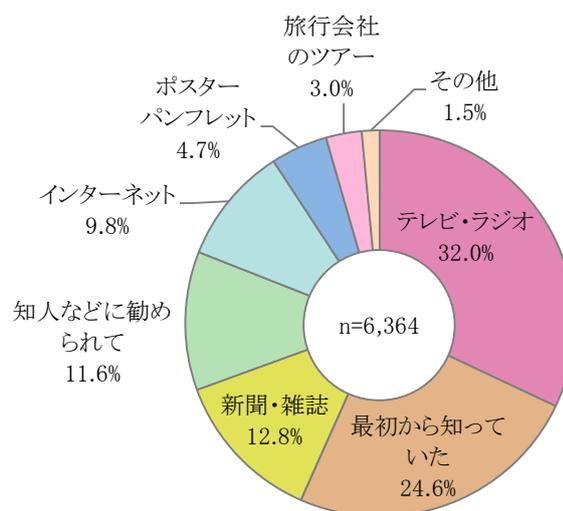
⑩認知方法（図7-24）

川越市の認知方法をみると、テレビ・ラジオが32%と最も高く、新聞・雑誌が約13%、知人などからの紹介が約12%となっています。



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図7-23 来訪回数

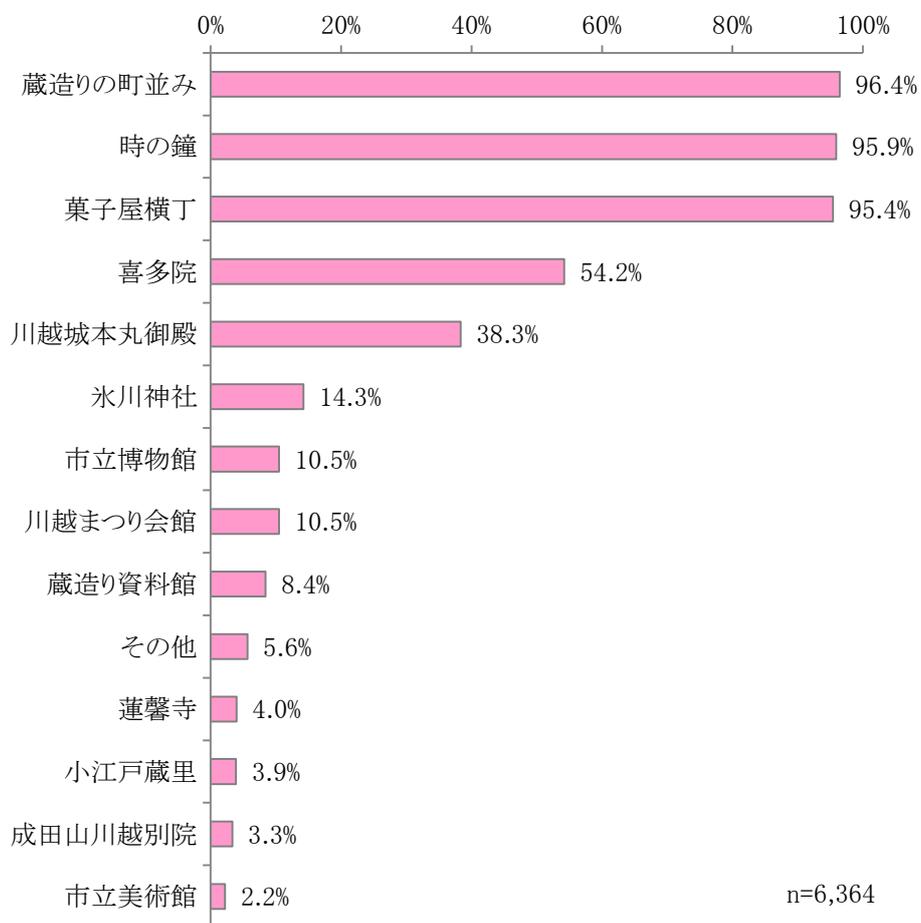


資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図7-24 認知方法

### ⑪立ち寄り観光地（図7-25）

立ち寄り観光地は、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁が多く、9割以上の来訪者が立ち寄っています。

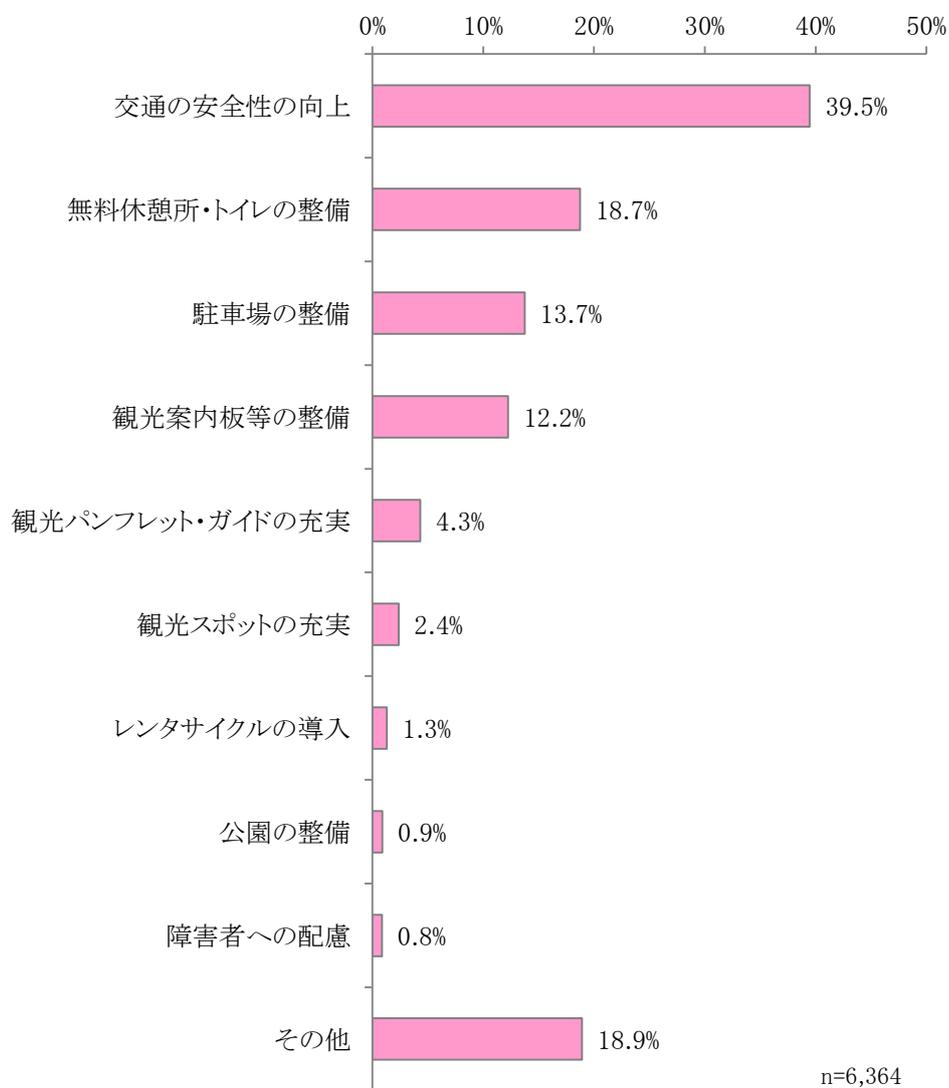


資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図 7-25 立ち寄り観光地

⑫要望（図7-26）

川越市に対する観光来訪者の要望をみると、「交通の安全性の向上」を求める声が多く、次いで、「無料休憩所・トイレの整備」、「駐車場の整備」に関する要望が多くなっています。



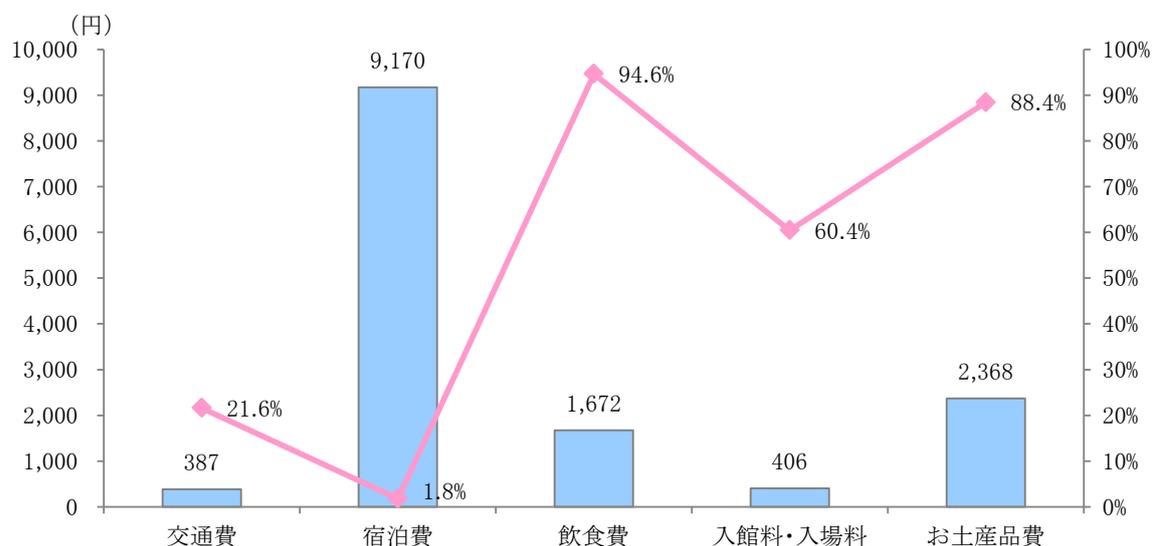
資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図 7-26 要望

### ⑬消費項目別の観光消費額と消費活動率（図7-27）

観光客一人あたりの平均の観光消費額を項目別にみると、宿泊費が9,170円と最も高くなっています。

しかし、消費活動率をみると、宿泊費は約2%と低く、活動率が高い消費項目は飲食費やお土産品費となっています。



資料：川越市観光アンケート調査(H26年)

図 7-27 消費項目別の観光消費額と消費活動率

## 7-2. 川越市観光振興計画の策定経過

### (1) 川越市観光振興計画審議会

#### ① 審議会委員

会 長	溝尾 良隆	元帝京大学経済学部 地域経済学科
副会長	安島 博幸	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 観光デザイン学科
	谷島 賢	一般社団法人埼玉県旅行業協会 川越支部
委 員	松山 潤	川越商工会議所
	山田 禎久	公益社団法人小江戸川越観光協会
	大野由美子	川越市畜産振興協議会
	清水 雅子	NPO法人川越蔵の会
	栗原 裕子	川越市女性団体連絡協議会 (川越商店街連合会やまぶき川越おかみさん会)
	井伊 重之	公募による市民
	中村 仁	公募による市民

#### ② 検討状況

- 第1回 平成27(2015)年6月1日  
○次期川越市観光振興計画の策定について
- 第2回 平成27(2015)年8月11日  
○次期川越市観光振興計画の素案について
- 第3回 平成27(2015)年11月24日  
○次期川越市観光振興計画の原案について
- 第4回 平成28(2016)年2月9日  
○次期川越市観光振興計画(案)について

## (2) 川越市観光振興計画検討委員会

### ①委員会員

委員長	早川 茂	産業観光部長
副委員長	矢部 竹雄	政策財政部長
委員会員	根岸 督好	報道監兼オリンピック大会準備担当理事
	牛窪 佐千夫	文化スポーツ部長
	佐藤 嘉晃	環境部長
	伊藤 大	都市計画部長
	横田 隆	教育総務部長

### ②検討状況

- 第1回 平成27(2015)年5月18日  
○次期川越市観光振興計画の策定について
- 第2回 平成27(2015)年7月31日  
○次期川越市観光振興計画の素案について
- 第3回 平成27(2015)年10月28日  
○次期川越市観光振興計画の原案について

## (3) 川越市観光振興計画検討部会

### ①部会員

部会長	飯野 英一	観光課長
副部会長	永堀 孝明	政策企画課長
部会員	小森谷 昌弘	広報室長
	山下 隆	オリンピック大会準備室長
	久津間 則子	文化芸術振興課長
	神田 宏次	スポーツ振興課長
	中里 良明	国際文化交流課長
	上野 正	美術館長
	箕輪 信一郎	環境政策課長
	田中 三喜雄	産業振興課長
	川野 修治	農政課長
	石井 隆文	都市計画課長
	大澤 健	都市景観課長
	井上 敏秀	交通政策課長
	田中 淳一	公園整備課長
	下 薫	文化財保護課長
	田中 信	博物館長

## ②検討状況

- 第1回 平成27(2015)年5月22日  
○次期川越市観光振興計画の策定について
- 第2回 平成27(2015)年7月17日  
○次期川越市観光振興計画の素案について
- 第3回 平成27(2015)年10月23日  
○次期川越市観光振興計画の原案について
- 第4回 平成27(2015)年11月19日  
○次期川越市観光振興計画の原案について